

## 令和5年度 栄養管理における多職種間連携強化支援事業研修会概要

日 時	令和5年10月2日（月）13:30～15:30	実 施 場 所	中和保健所 101 会議室 及びオンライン併用																						
出席者	<p>○参加者 69 名（対面 13 名、オンライン 56 名）</p> <p>対象者：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「食支援」に関するアンケート対象者で研修案内希望者：35 施設【中和医療圏（大和高田市、香芝市、葛城市、広陵町）の介護関連課、各施設の職員※】</li> <li>・管内特定給食施設（病院、福祉施設）：30 病院、113 施設</li> <li>・東和医療圏のワーキング委員：32 施設【8 病院（給食施設と重複）、24 施設のケアマネジャー、看護師等】</li> <li>・管内市町村保健センター</li> </ul> <p>○講師：畿央大学 准教授 熊本登司子氏 ：介護老人保健施設リンク 檀原 杉本 共美氏</p> <p>○事務局：中和保健所 5 名、管理栄養士臨地実習生 7 名</p>																								
目 的	<p>栄養サマリー等の多職種への周知・理解を広め、在宅と病院・施設間で行えるよう多職種の意見を集約し、多職種で活用できるよう体制整備する事を目的とする。</p>																								
内 容	<p>1. 挨拶 奈良県中和保健所 健康増進課課長 三原 文子</p> <p>2. 議題</p> <p>（1） 情報提供①「栄養サマリー」運用の経緯  <span style="float: right;">奈良県中和保健所健康増進課</span>                      令和3～5年度実施「栄養サマリー」の運用に関するアンケートおよび「食支援」に関するアンケート結果について  <span style="float: right;">畿央大学臨地実習生</span></p> <p>（2） 講演① 「継続した栄養管理の必要性について」  <span style="float: right;">畿央大学健康科学部健康栄養学科 准教授 熊本 登司子氏</span></p> <p>（3） 講演② 「介護保険制度における在宅栄養管理～高齢者施設管理栄養士として～」  <span style="float: right;">介護老人保健施設リンク 檀原 杉本 共美氏</span></p> <p>（4） 意見交換会「多職種のより良い連携について」                      &lt;栄養サマリーについて&gt;</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">熊本先生</td> <td>会場で、在宅における食支援を行っている施設はあるか。</td> </tr> <tr> <td>病院</td> <td>退院されたあとも関わっている。</td> </tr> <tr> <td>熊本先生</td> <td>貴病院は在宅へ関わっていることを存じ上げている。多職種という観点で問題に感じていることはあるか。</td> </tr> <tr> <td>病院</td> <td>院内では栄養サマリーをその他の職種含めて周知できている。</td> </tr> <tr> <td>熊本先生</td> <td>他の職種が栄養サマリーを見ることはあるか。</td> </tr> <tr> <td>病院</td> <td>看護サマリーと一緒につづため、看護師は見てくれている。カロリーなどは栄養士が把握しているところ。</td> </tr> <tr> <td>熊本先生</td> <td>カロリー計算などは栄養士の行うところである。 (老健へ) 在宅での関わりはあるか。</td> </tr> <tr> <td>老健</td> <td>老健なので、デイサービスのラウンドで気になった方に話している。</td> </tr> <tr> <td>熊本先生</td> <td>特養ではどうか。</td> </tr> <tr> <td>特養</td> <td>在宅に関わった経験がある。居宅のケアマネジャーから相談があり、それに対してアイデアを提案したことはある。頻度としては頻繁にある。</td> </tr> <tr> <td>熊本先生</td> <td>地域包括支援センターはどうか。</td> </tr> </table>			熊本先生	会場で、在宅における食支援を行っている施設はあるか。	病院	退院されたあとも関わっている。	熊本先生	貴病院は在宅へ関わっていることを存じ上げている。多職種という観点で問題に感じていることはあるか。	病院	院内では栄養サマリーをその他の職種含めて周知できている。	熊本先生	他の職種が栄養サマリーを見ることはあるか。	病院	看護サマリーと一緒につづため、看護師は見てくれている。カロリーなどは栄養士が把握しているところ。	熊本先生	カロリー計算などは栄養士の行うところである。 (老健へ) 在宅での関わりはあるか。	老健	老健なので、デイサービスのラウンドで気になった方に話している。	熊本先生	特養ではどうか。	特養	在宅に関わった経験がある。居宅のケアマネジャーから相談があり、それに対してアイデアを提案したことはある。頻度としては頻繁にある。	熊本先生	地域包括支援センターはどうか。
熊本先生	会場で、在宅における食支援を行っている施設はあるか。																								
病院	退院されたあとも関わっている。																								
熊本先生	貴病院は在宅へ関わっていることを存じ上げている。多職種という観点で問題に感じていることはあるか。																								
病院	院内では栄養サマリーをその他の職種含めて周知できている。																								
熊本先生	他の職種が栄養サマリーを見ることはあるか。																								
病院	看護サマリーと一緒につづため、看護師は見てくれている。カロリーなどは栄養士が把握しているところ。																								
熊本先生	カロリー計算などは栄養士の行うところである。 (老健へ) 在宅での関わりはあるか。																								
老健	老健なので、デイサービスのラウンドで気になった方に話している。																								
熊本先生	特養ではどうか。																								
特養	在宅に関わった経験がある。居宅のケアマネジャーから相談があり、それに対してアイデアを提案したことはある。頻度としては頻繁にある。																								
熊本先生	地域包括支援センターはどうか。																								

	地域包括支援センター	施設同士の栄養管理は出来てきた。看護医療連携事業で葛城市は事業を進めている、栄養士に限らず、介護と医療の連携はうまくいっていないように感じている。在宅でも栄養サマリーを活用していく事で、在宅における栄養管理が進んでいくのではないかと。一般介護予防事業で、元気な高齢者を対象に運動教室を実施している。その中で教室へ出向いて管理栄養士が関わっている。居宅管理栄養指導が進んでいるという話はあまり聞かない。医療介護連携の中で、医療職の中に混じってお話いただくのが良いと思う。	
	熊本先生	病院ではどうか。	
	病院	在宅への関わりは出来ていない。病院と施設間の連携のみ。退所時や入院時には栄養サマリーを活用している。老健でも同様。	
	熊本先生	地域在宅栄養管理を進めていく中で提案があれば伺いたい。	
	杉本先生	デイケアでの加算について。利用者さんに栄養のケアが必要だということを説明するのはケアマネジャー。食事のケアが必要であるというニーズがないと加算がとれない。フレイルに対してケアマネジャーは、病院へ行っているから、訪問看護をしているから大丈夫と考えている方が多い。栄養士としてケアマネジャーへ栄養が重要、必要であるという認識を持ってもらうことが必要。	
	熊本先生	今年の初めの会議では、訪問看護師においては栄養サマリーについて好感触であった。ケアマネジャーさんにおいては、医療分野からの方には伝わりやすいが、介護分野からの方はまだ分かりにくいように感じている。おかしいなと思ったことには管理栄養士へ相談できるよう、つながることが必要。参加者には栄養士が多く、様々な意見をいただくことは難しかったが、参加して下さった栄養士には自施設で多職種に対し栄養の重要性をお伝えして欲しい。	
アンケート結果	<p>アンケート結果から</p> <p>○情報提供および講演について、ほぼすべての者が「理解できた」と回答しており、対象者に対して適切な内容であった。</p> <p>○意見交換会において、3割が共有することができたと「思わない」と回答しており、本研修会にその他職種の参加がほとんどなかったことから、本意見交換会の趣旨は達成できなかった。</p> <p>○意見交換会で共有することができたと「思う」と回答した割合が高い施設は、老人福祉施設や保健センターで高く、在宅のケースに関わる機会が多い施設であると考えられる。</p>		
今後について	<p>本研修会は、多職種連携強化支援事業研修会として、管理栄養士・栄養士以外の職種を主の対象者として開催した。一方で、その他職種の参加が少なく、在宅の食支援に関わる職種への周知が十分でなかった。情報提供や講演はほぼ全ての参加者が理解できたと回答しており、内容は適当であった。意見交換会では、その他職種の意見を集めることができなかったため、次回開催予定のワーキング会議では、今後の研修会・会議のあり方についても委員で検討したい。</p>		